

おかげさまでメルマガ1周年！

■ ICLO MAGAZINE NO.13 ----- 2011/9/21

★★★ 財団法人 大阪国際児童文学館 メールマガジン ★★★

おかげさまで、このメルマガは発行1周年を迎えました。現在会員登録数616人さま。ありがとうございます。これからも多くの方に永くご愛読いただけるよう、スタッフ一同頑張っております。次号は10月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 13

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●オーストラリアの絵本作家ショーン・タン氏による

(1)国際講演会 (2)子ども向けワークショップ の参加者を募集しています。
会場はいずれも、大阪府立中央図書館 大会議室です。

(1)国際講演会 「ことばを超えて-絵が語る物語の力」

日 時：平成23年10月15日(土) 午後1時～4時

通 訳：多田昌美(美作大学短期大学部准教授)

対 象：一般、読書ボランティアの方など 80名(申込先着順)

参加費：一人 1,000円

内 容：映像を交えて作品を紹介しながら、自作について、絵本について語ります。

(2)ワークショップ 「ふしぎの国の絵本をつくろう」

日 時：平成23年10月16日(日) 午後1時～4時

対 象：小学生 40名(申込先着順)

参加費：一人 500円 通訳：あり

内 容：自著『遠い町から来た話』を紹介し、子どもたちが自由に絵本の創作に取り組みます。

◇主 催：財団法人 大阪国際児童文学館

後 援：大阪府子ども文庫連絡会

協 賛：関西電力株式会社、近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社富士通東北システムズ、ムサシ・アイ・テクノ株式会社

お申し込み、詳細は → <http://www.iclo.or.jp/>

●「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月6日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimono

●東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈るー

・その1『いっしょだよ』募金のお願い！

子どもたちに本を！被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

・その2「本の寄贈を希望される施設」の募集！

学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み／お問合せ：当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

●寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ペテフレット荘のプルック』上・下 アニー・M・G・シュミット/作
フィーブ・ヴェステンドルフ/絵 西村由美/訳 岩波書店 2011年7月

あらすじ：赤いクレーン車に乗って住むところを探していたプルックがペテフレット荘の一番上にある塔に住み、そこに住む優しい本屋さんのペンおじさんや潔癖症のピーカピカさんとその娘アーヒエ、21階に住む父親と6人兄弟のドンドンドンシンさん一家や、ハトのドリーやゴキブリのザザなど

と暮らす様子を描いた短編連作で、一編ずつ完結しながら、後半のキジバト森が撤去されるのをみんなで阻止するところまで、大きい物語にもなっていく。

○：この欄を話し合っ、一年になりますね。新刊紹介というのではなく、話題提供するという目的でやってきましたが、そうなっていますかしら？「話題提供」を意識して選んだのがこの作品ですが、1971年にオランダで書かれたものが40年後「新刊」として、いま、なぜ、出版されるのか考えてみる必要があるように思いました。

Ｙ：赤いクレーンに乗った8歳ぐらいの男の子が一人で塔のてっぺんに住むという設定は子どものあこがれだなと思って読みました。潔癖症の母親から娘を救ったり、破壊されそうになった森を守ったり、現代に通じるテーマも描かれていて、「長靴下のピッピ」の系譜でありながら、もっと年齢の低い子どもにも喜ばれる作品になっています。

○：そういうふうにも考えられますが、さまざまな問題を結局は周りの大人たちが解決してくれるという守られた子ども像が描かれているという点では1970年代までの安定した家庭にいる子どもだけが「楽しめる」ものだったのでは？

Ｙ：そういう意味ではプルックにもう少し個性があればと思います。けれども、シュミットは才能あるストーリーテラーなので、幼年期に、読んでもらったら、楽しめるでしょうね。挿絵の子どもの描かれ方も1970年代らしさを感じる点でした。一方で、挿絵の色使いが美しく、カラーで出版されてよかったなと思いました。絵は細かいところもおもしろいですし。

○：大人を徹底的にやっつけるという点が当時では革新的だったでしょうし、いまも、それは変わっていないということでしょうか。いまの子ども読者の反応が知りたい作品です。

Ｙ：ヨスネビトやオオカミなど、風刺を利かせた大人像が楽しかったです。また、プルックが虫や動物たちと話ができるのも子どもにとってはあこがれるのではないかなと思って読みました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 13

「その5 絵本の選び方(8) 絵本を評価する：ことば」

絵本のことばを評価する際には以下の点について考慮する必要があります。まずは、絵本は「読んでもらうのに適したメディア」といわれるように、絵を見ながら耳からことばを楽しむことが多いため、声に出して読んだときに情景が浮かんでくるか、会話がいきいきとしているか、ストーリーが理解できるか、文章にリズムがあって耳で聞いて楽しいかということが評価の観点になります。特に擬音語や擬態語が使われている場合、それらの音の響きが作品全体でどのような意味を持っているかが計算されてかかっているかどうかということが重要です。

次に、絵とことばのかかわりです。絵とことばがそれぞれどのような役割分担をしているか、絵で描いていることをことばが必要以上に説明していないか、一方、登場人物の内面や会話など、ことばでしか表現できないことを的確に表現しているか、絵で描かれた人物像や情景とことばで表現されたそれとが統一した世界を作り上げているかという点が評価の観点になります。

当財団特別顧問の中川正文先生はいつも「絵本が日本語の最後の砦」とおっしゃいます。子どもは気に入った本は何度も何度も繰り返して読み、ことばを覚えてしまいます。そのように体に浸み込む可能性のある絵本のことばは、人とのコミュニケーションや深い思索を可能にする本来ことばの持つ力を十分に発揮していることが重要だと思います。絵本に出会うことによって子どもがことばの魅力に気づくような本を選びたいと思います。(Y)

*次号では「その5 絵本の選び方(9) 絵本を評価する：大きさ ビッグブック」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース13回目。今回ご紹介するのは、論文探索に活用できる「雑誌記事索引」と「国文学論文目録データベース」の二つのサイトです。

●雑誌記事索引（国立国会図書館）

<http://opac.ndl.go.jp/> から[雑誌記事索引の検索／申込み]へ

●国文学論文目録データベース（国文学研究資料館）

<http://base1.nijl.ac.jp/~ronbun/>

「雑誌記事索引」は、国会図書館が収集・整理した国内刊行和雑誌（1949年以降）の記事をデータベース化したもの。これまでの収録タイトル数は約2万件に及び、昨年には記事数が1,000万件を突破しました。かつては学術雑誌のみでしたが、その後一般誌にも採録の幅を広げています。論文を調べる際、最も活用されているサイトとってよいでしょう。

一方、「国文学論文目録データベース」は、大正元年から平成20年までの国文学関連論文を対象とし、約48万6,000件の記事を収録。戦前からの文献が掲載されているほか、国文学に特化しているのが特徴です。

両者はどのように違うのか、試みに当財団発行の「国際児童文学館紀要」全24号に掲載している収録記事全163件を検索してみました。

「雑誌記事索引」は、95件がヒット。最新号（2011年3月刊）がしっかり入力されていた一方、逆に創刊（1985年3月刊）から10年分くらいの古いところはデータがありませんでした。他方の「国文学論文目録データベース」では90件がヒット。ほぼ同数ですが、創刊号からの記事が収録されている反面、直近3年分ほどはデータがなく、また国文学に関連が薄いと見なされたのか、すべての記事が収録されているわけではありませんでした。

他に、NII論文情報ナビゲータ「サイニィ」もあります。こちらは、一部の

論文は本文そのものが読めます。<http://ci.nii.ac.jp/> (国立情報学研究所)

同じような論文検索でも、各サイトによって対象記事の選定方針、現在の入力状況などが異なります。ヒットせず＝ない、と判断しがちですが、使用する際には、データベース作成の趣旨や目的、収録データの実状をきちんと認識しておく必要があります。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その14〉の予定です。

《4》 行って来ました！

東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンの取り組みとして、9月13日に大阪府立中央図書館で大阪府子ども文庫連絡会、大阪府書店商業組合の皆さんとともに、被災地の保育所や幼稚園、小学校など16カ所872冊の発送作業を行いました。

そして、本が到着する15日にその中の2カ所を訪問してきました。宮城県亘理(わたり)郡亘理町で、復興に向けて自主的に様々な取り組みをされているコミュニティカフェ「亘理いちごっこ」では、近くの仮設住宅に住む0・1歳の子どもと母親が箱の開封と、おはなし会に参加。『りんご』(童心社)や『ぼーるがころころ』(ひかりのくに)『きんぎょがにげた』(福音館書店)などの絵本を楽しみました。赤ちゃんからおじいさん・おばあさんまでが訪れる施設であるため、絵本を通して交流が広がればいいなと思いました。

続いて、福島県伊達市立保原幼稚園は4・5歳の幼児40人がお昼寝のあと、『きょうはみんなでクマがりだ』(評論社)などの絵本やおはなしを楽しみました。おはなし会のあとは、お贈りした絵本を自由に見る時間になり、子どもたちは先生に読んでもらったり、数人で見たりしながら楽しんでいました。放射線の影響で外遊びの時間が制限される中、絵本が少しでも子どもたちの時間を楽しいものにしてくれたら、と思いました。(Y)

【3】全国のイベント紹介

●シンポジウム「子どもの物語・大人の物語」

日 時：平成23年9月24日(土) 午後2時～4時

会 場：大阪産業創造館(大阪府中央区本町1丁目)

パネラー：今江 祥智(児童文学作家)、里中満智子(マンガ家)

越水利江子(児童文学作家)、令丈ヒロ子(児童文学作家)

ひこ・田中(児童文学批評家)

対 象：中学生以上

定 員：100人 予約制(往復はがき、またはE-mailで申込み)

参加費：500円

主 催：日本ペンクラブ

●田島征彦絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン

期 間：開催中 11月13日(日) まで

内 容：堺市出身の絵本作家、田島征彦氏の代表作品の一つ「じごくのそうべえ」などの絵本原画。旧・大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた。

イベント：・ワークショップ 『じごくのそうべえ』の世界を楽しもう

9月23日(金・祝) 午後2時～3時 定員30名

講師：土居安子 当財団主任専門員

・おはなしポップ おはなし会 いずれも午後2時から

10月1日(土)、10月23日(日)、11月12日(土)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

1年分の感謝をこめて特別プレゼント！今号のコラム《1》「YO！この本読んだ？」で紹介しました『ペテフレット荘のプルック』上・下をセットで1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.13プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメル

マガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月8日(土)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

1年は束の間、ますます時の流れを早く感じる。それでいて、昨年の今頃は……などと思返そうとしても、何も浮かんでこない。遠い昔のことのよう
に思える—。これからの1年、2年後のこと、足元を見つめながら強くイメージを描いていたい。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
